



下関クラブの戦歴とこれから

Game Result of SHIMONOSEKI RUGBY CLUB

Since 2001 to 2003

注意) 半分しゃれで作成しております。データは一応間違いないと思いますが、内容について責任持てません。

The Shimonoseki club is the rugby club team to subscribe to the Yamaguchi Prefecture rugby society in the belonging.

The member of society and the undergraduate gather mainly in Shimonoseki City and the activity is necessary. The purpose is to play in the pleasant rugby.

It suffers rugby in the filling regardless of the stager, the non- stager.

7 teams, 21 teams in amount subscribe a prefecture league in Yamaguchi Prefecture to each league to A-C respectively in the present in 2003 and reduce bearing by the league series through the year.

This report gathered the data of the game of the Shimonoseki club until 2001 - 2003, it extracted a defect, a merit, viewed a Shimonoseki club in the future and had a purpose of making a guideline.

1 . はじめに

下関クラブは山口県ラグビー協会、下関市ラグビー協会主催の県リーグ、市リーグに登録しているラグビーのクラブチームである。下関市を中心に社会人及び大学生が集まって活動しており、「楽しいラグビー」を目的として、経験者、未経験者を問わずラグビーを満喫している。

山口県の県リーグは 2003 年度現在、A ~ C までの各リーグにそれぞれ 7 チーム、合計 21 チームが登録し、年間を通してリーグ戦でしのぎを削っている。

本書では下関クラブの 2001 年度 ~ 2003 年度までの試合のデータをまとめ、今後の下関クラブの展望、弱点、長所の抽出、もしくは打倒下関クラブ！を目指すチームの指針とすることを目的とした。

試合は県リーグについてまとめており、市リーグ、交流試合、10 人制、7 人制の試合結果は割愛した。



2. 戦歴データ

県リーグは春と秋で合計6試合程度を行っており、表1～3はその結果を示している。

表には対戦チームと日時及び両チームの得点を記載した。また、勝敗の数字1は下関クラブの勝ちを0は負けを意味している。

2002年度は全勝でBリーグ優勝し、これにより2003年度はAリーグに上がることになった。そのため、2003年度の対戦相手と2002年度までの相手は大きく異なっている。

次項よりその戦績について詳しく説明する。

表1 2001年度 県リーグの結果

2001年度 県リーグ			得点			得点			勝敗
No	日時	相手チーム名	下関クラブ	前半	後半	相手チーム	前半	後半	
1	5月15日	御影クラブ	27	13.5	13.5	19	9.5	9.5	1
2	6月3日	海上自衛隊小月	21	0	21	0	0	0	1
3	9月2日	山口のんた	38	19	19	10	5	5	1
4	9月30日	山口クラシックラグー	7	0	7	24	10	14	0
5	10月28日	山口のんた	50	24	26	0	0	0	1
6	11月25日	光クラブ	5	5	0	24	12	12	0
7	12月2日	月星クラブ	0	0	0	22	12	10	0
合計得点			148	61.5	86.5	99	48.5	50.5	4
平均得点			21.1	8.8	12.4	14.1	6.9	7.2	57.1

表2 2002年度 県リーグの結果

2002年度 県リーグ			得点			得点			勝敗
No	日時	相手チーム名	下関クラブ	前半	後半	相手チーム	前半	後半	
1	4月7日	月星クラブ	31	5	26	22	10	12	1
2	6月23日	海上自衛隊小月	34	22	12	19	0	19	1
3	6月30日	光クラブ	15	10	5	5	0	5	1
4	10月14日	山口クラシックラグー	15	5	10	5	5	0	1
5	10月27日	御影クラブ	15	10	5	14	14	0	1
6	12月7日	医学クラブ	20	10	10	0	0	0	1
合計得点			130	62	68	65	29	36	6
平均得点			21.7	10.3	11.3	10.8	4.8	6.0	100.0

表3 2003年度 県リーグの結果

2003年度 県リーグ			得点			得点			勝敗
No	日時	相手チーム名	下関クラブ	前半	後半	相手チーム	前半	後半	
1	4月13日	日本製紙	28	14	14	12	0	12	1
2	6月1日	工学クラブ	7	7	0	24	14	10	0
3	6月15日	萩クラブ	7	7	0	27	10	17	0
4	9月28日	医学クラブ	36	10	26	0	0	0	1
5	10月5日	ノーサイド	34	14	20	36	15	21	0
6	10月26日	東ソー	22	11	11	17	0	17	0
合計得点			134	63	71	116	39	77	2
平均得点			22.3	10.5	11.8	19.3	6.5	12.8	33.3



3. チーム成績に関する考察

）チーム勝率の推移

まず始めに県リーグの勝率の推移について説明する。

図1に3年間の推移を示す。2001年度の勝率が57%なのに対して、2002年度は100%に勝率が上がり、Bリーグ優勝した。また、これにより2003年度はAリーグに上がることとなった。2003年度は対戦相手がAリーグの強豪ぞろいになったことにより勝率が33%に低下したが、リーグ昇格後一年目であることを考えれば十分であったと思う。また、来年以降、同じ条件で試合をしたとすれば、経験値分だけより善戦できると考える。

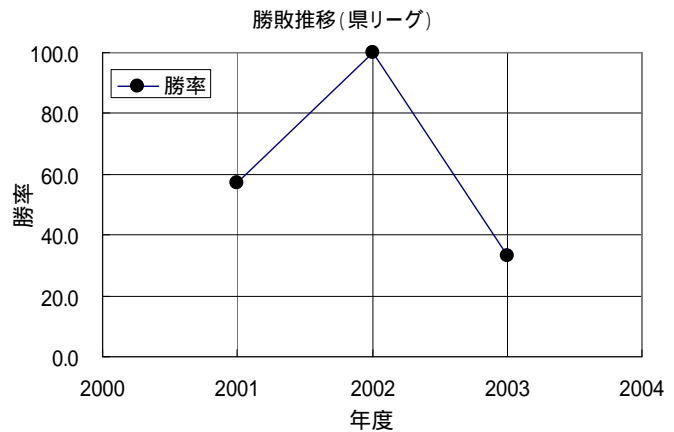


図.1 勝率の推移

）一試合平均得点、失点の推移

次に一試合当りの平均得点及び失点の推移について説明する。図2は2001年度から2003年度の平均得失点の推移を示している。各年度ともに得点は21,2点程度であり大差はない。勝率の高い2002年度は失点が約11点と低く、勝率が悪い2003年度は約19点と高い。

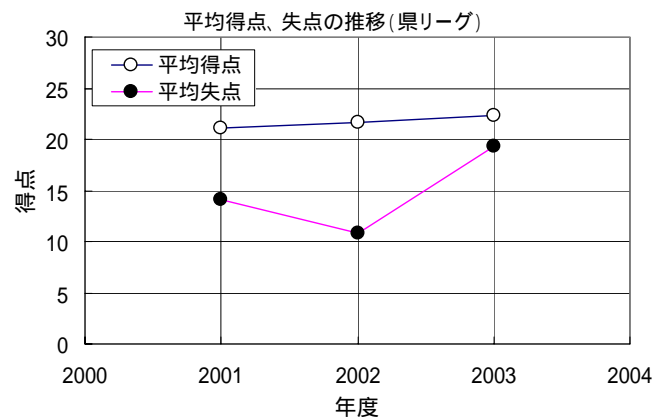


図.2 平均得点、失点の推移

このことから以下の通り考察できる。

得点を劇的に増やすことは難しい。

(得点は安定しているとも言える)

失点の推移が勝率に連動しており、来年以降の勝率を上げるためには失点を減らしていくことが重要である。

また、2003年度は勝率では負け越しているにもかかわらず、平均得点と平均失点は大差がなく、むしろ少し、得点が失点を上回っている。

これは以下に起因するものであり、このことから来年以降の善戦が予想できる。

負けた試合での接戦。

勝った試合での得点差が大きかった。



）得トライ数、失トライ数の推移

本項では、前項にて説明した、得点の内訳についてもう少し詳細に説明する。

図3の棒グラフは各年度のトライ数を示している。県リーグではペナルティーキックを狙うことがほとんどないので*注1、上述の平均得点とトライ数はほぼ連動していると言える。(2002年から2003年になってトライ数が微増であるにもかかわらず、総得点が微量ながら減っているのはコンバージョンの成功率低下が原因か？(今回、コンバージョン成功率は算出せず。))

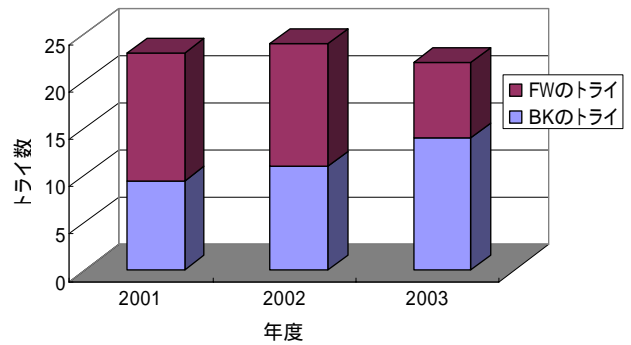


図.3 平均得点、失点の推移

従って、当たり前ではあるが、前項の総得点と同様に2001年、2002年とほとんど変化はないが、2003年度はトライ数が減っている。

ここで注目したいのは、ボックス(以下、BK) フォワード(以下、FW)のトライの割合である。

棒グラフでBKとFWのトライ数の内訳を示している。*注2、これによると2003年ではBKのトライは増えているが、逆にFWのトライ数が大きく減少しており、これが総トライ数の減少につながっている原因となっている。

これら(BKのトライ数増加及びFWのトライ数減少)の要因は次の通りと推察する。

Aリーグでは他チームのFWのレベルが高い(体型が大きい& B、Cリーグでは未経験者も結構いるが、Aリーグでは殆どが経験者のように思う)

下関クラブのBKにラグビー経験者が入部した。(岡、信濃、宮本大誠等)

）前後半の得失点の比率

図.4のグラフは前後半の得点及び失点を示している。

各年度共に得点も失点も後半が多いことが分かる。(集中力、体力の消耗が原因で大味なゲーム展開になるためか?)

2003年度は特に後半の失点が多く、他チームとの自力の差があるものと考えられる。更なるレベルアップのためには最後まで集中力を切らさない精神力、体力の向上が必要であると思う。

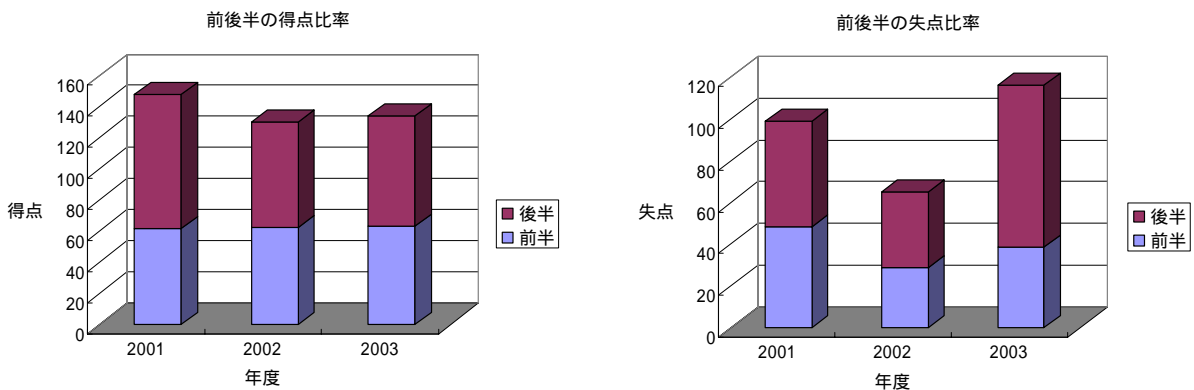


図.4 前後半の得点比率



) 参加人数と勝敗の関係

図.5 は参加人数と勝敗の関係を示している。

これによれば、参加人数が増えるにしたがって勝率が上がっている（18人の時には下がっているが、全体の傾向としては右肩上がり）。2001～2003年度の試合を一緒に評価していること、データ数が少ないことから、参考程度に考える必要はあるが、後半に元気な人が入ることで、試合が優位に進むことは容易に想像できる。

人数は多いほうが優位であり、選手の方には試合の際にはできる限り参加してもらいたいし、戦略的な交代ができる人数がいれば、更に勝敗は向上すると考える。

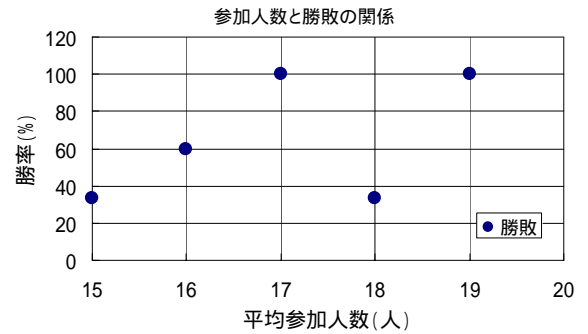


図.5 参加人数と勝敗の関係

) 出場者年齢の推移

図.6 は各年度の試合参加プレイヤーの平均年齢をまとめたものである。*注 3.4平均年齢は、2001 から2002年にかけて、約1歳平均年齢が上がった後、2003年で急激に若返った。2001、2002年の平均年齢が約1歳上がっているのは新人加入が少なく、ほぼ同じメンバーでの参加であったため、プレイヤーがそれぞれ1年、歳をとったことによるものといえる。

これに対して、2003年度は若手選手の入部(?)により平均年齢約26歳と大きく若返った。最近入部した選手の方にはこのままやめずにクラブに在籍し、クラブの中核を担ってもらいたい。

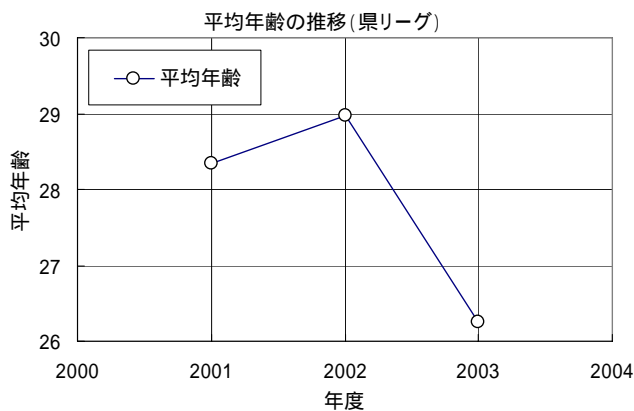


図.6 平均年齢の推移



4. 個人成績に関する考察

) トライゲッターについて

トライは選手全員の思い、プレーの結晶であり、個人の成績と判断するのめどうかと思うし、ポジションの優越もあると思う。とは言っても、それはラグビの一つの花であり、ラグビートップリーグでも話題になるタイトルの一つである。ここでは参考にこれらトライ数等の個人成績についてまとめてみた。タックル成功率、ラインアウト成功率、(得/失) ターンオーバー回数、等もまとめることができれば有意義なデータになると思うが、そこまでのデータの採取は難しいので今回は検討しなかった。

表4は各年度のトライ王(リーグ戦中のトライ数のもっとも多い人)を、表5は2001~2003年のトータルのトライ数(トライ王)とトライ数を参加時間で割ったトライ率を示している。^{*注5} これらの表から言えることは次の通りであり、来年以降の得点力に不安を感じる。

各年度毎にトライ王は変わっており、メンバーが定着していない苦しい実情が見えてくる。

(2001年トライ王の金尾さんはタイに長期出張中、2002年トライ王の内田さんはひざのけがで2003年の試合参加減少、2003年トライ王の岡さんは2003年シーズン終了後、長崎へ引越した。)

総トライ王、トライ率王のメンバーについても試合に参加する機会が減っている人が多い。

表4 各年度のトライ王

年度	順位	プレーヤー名	トライ数	年度	順位	プレーヤー名	トライ数	年度	順位	プレーヤー名	トライ数
2001	1	金尾	3	2002	1	内田	5	2003	1	岡	4
	2	伊藤(健)	3		2	清水	3		2	中村	2
	3	花田	2		3	藤川	3		3	安藤	2
	4	前田	2		4	花田	2		4	鶴田	2
	5	日野	2		5	愛甲	2		5	愛甲	2

表5 2001~2003年の総トライ王、トライ率まとめ

トライ王	プレーヤー名	年度及び各年のトライ数			トライ数	参加 試合数	トライ数 /1試合	トライ率王
		2001	2002	2003				
1	内田		5		5	16	0.31	7
2	伊藤(健)	3	1		4	2	2.00	1
3	花田	2	2		4	14	0.29	9
4	前田	2	1	1	4	7	0.57	3
5	清水	1	3		4	9	0.44	4
6	愛甲		2	2	4	10	0.40	6
7	岡			4	4	2	2.00	1
8	金尾	3			3	7	0.43	5
9	梶山	1	1	1	3	12	0.25	10
10	藤川		3		3	10	0.30	8
11	中村		1	2	3	15	0.20	11



5. まとめ

2001～2003年までのデータより下関クラブの状況と今後の展望をまとめると以下の通りである。

失点の推移が勝率に連動しており、来年以降の勝率を上げるためには失点を減らしていくことが重要である。

2003年度は勝率では負け越しているが、平均得点と平均失点は大差がなく、同じメンバーであれば来年以降の善戦も予想できる。

2003年では、BKのトライ数は増えている。逆にFWのトライ数が大きく減少しており、これが総トライ数の減少につながっている。

各年度共に得点も失点も後半が多く、特に2003年度は後半の失点が多い。更なるレベルアップのためには最後まで集中力を切らさない精神力、体力の向上が必要である。

参加人数が増えるにしたがって勝率が上がっている。

平均年齢は、2001年から2002年にかけて、約1歳平均年齢が上がった後、2003年で急激に若返った。

各年度毎にトライ王は変わっており、またトライ王には参加する機会が減っている人が多いことから2004年度の得点力に不安を感じる。

以上

補足及び注意

注1) ペナルティーキックによる得点は0点であった。

注2) 尚、助っ人等BKもしくはFWかわからない人のトライについてはカウントしなかった。

また、本来のポジション以外で出ている人もいるかとは思いますが、現在のポジションで考えた。

注3) 助っ人や年齢不詳な人は含めておらず、また年度始めの年齢で大体の平均を算出しているの
で正確ではないが、大きくはずれてもいないと思う。

注4) 登録者の平均ではない。

注5) 参加時間は試合に来たときは交代なしでフルに出場したとして算出。